

SSKS

# 働こう障害者も 働けるんだオレたちも こぶしだより

企画：社会福祉法人 こぶしの会  
発行責任者：藤田勝春  
編集責任者：田澤幸子  
発行所：障害者団体定期刊行物協会  
(〒157-0073)  
東京都世田谷区砧6-26-21  
定価 100円



### もくじ

- ①特集 見てきた、聞いてきた北欧障害者の暮らしの様子 (第2回) …2・3ページ
- ②仲間……………4・5ページ
- ③保護者……………6ページ
- ④トピックス……………7ページ
- ⑤掲示板……………8ページ

こぶし作業所 森下 あゆみ

社会福祉法人  
こぶしの会

- 法人事務局 こぶし作業所・生活支援センター ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912
- けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244  
●デイサービスセンター TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789
- 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
●県東ライフサポートセンター TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818  
TEL 028(687)0311
- グループホーム ☎321-0954 栃木県宇都宮市元今泉6-14-20  
こぶしのときわ荘 TEL 028(662)5533
- グループホーム ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2  
すずらんの家 TEL 028(677)4430

特集

# 見てきた、聞いてきた 北欧障害者の 暮らしの様子

(第二回)

けやき作業所所長  
高橋 温美



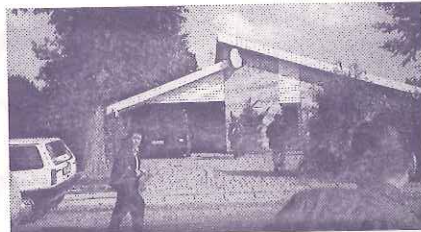
デンマークの視察はオフィス県障害福祉課長の行政概要のレクチャーから始まりました。

二十五年間障害者福祉に携わっているという彼は、「オフィスの制度は私が作ってきた」という自負があり、個人という立場をあまり表明しない日本の公務員とはだいぶ違うなという印象を強く持ちました。

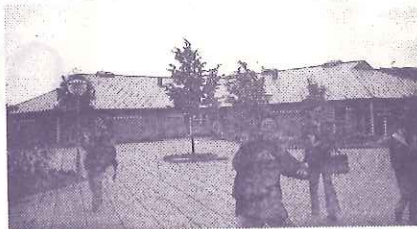
デンマークではまず、介護や住宅についての多岐に渡る生活支援の基本となる制度（新社会法）で高齢者から障害者まで救済の手から落ちこぼれることのないように法律を整備しました。この法律は高度成長期が破綻し低成長期に予算削減を前提に改訂されたもので、民間委託や自立支援を進める内容になっていますが、こうした厳しい予算状況の中でも知的障害者は優遇されており、彼らだけが失業や住宅

に困らない生活を保障されているといいます。障害者福祉の予算は全て県、市町村が等分に負担。医療を含めて無料です。

さて、デンマークではこうした土台が整備された上で個々の障害に応じた居住施策が展開されています。デンマークでの生活の場は、障害者の基準の上に様々な創意工夫がされていて、いわば試行錯誤を含んだ豊かな実践が展開（参照・障害者の生活の場の展開）されています。私たちが見学した彼らの暮らし（主に知的障害者）は次のようなものです。

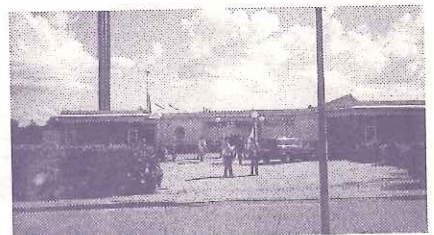


▲4人の障害者が介護人を雇用し共同してくらしているホーム（写真1）



▲重度重複の人たち4人のグループホーム（写真2）

一つは何人かで住居を借り上げ、介護人を雇い共同生活をしている、いわばグループホームのようなもの（写真1）二つめは日本でいうグループホームと同じ規模の、重度重複障害者の生活の場（写真2）。三つめは、公的な職員の管理下におかれている日本の入所施設を小さくしたようなグループホーム（写真3）で、四つめは地域住民の反対のために（デンマークでは町の中にあることがグループホームの前提です）町からちよっと離れた所に建設され



▲7人のグループホームが3棟合築されたグループホーム（施設？）（写真3）



▲7人の小舎が約10棟集合した施設（市街地から少し離れている）内1棟は処置困難者の棟（写真4）



▲解体された収容施設を利用し常時医療的ケアが必要な人たちが生活をしている。（オフィス県ではこの1ヶ所）（写真5）

た小舎制の施設のようなもの（写真4）。この中には処遇困難者の棟もあります。最後に、昔の施設跡で暮らしている、日常的に医療を必要とする人たちの生活の場があります（写真5）。紙面の都合でこれらの場の詳細については後日、報告の機会があればさせていただきますと思いますが、ここでは二つの気付いた点だけを簡単に報告させていただきます。

一つは、残存している入所施設は八十年代から積極的に、何度も脱施設と地域生活への試行を重ねた上での現在の過程としての形だということです。生活の質、自己決定、自立という基本的な原則を実践的に追求した上での重度障害者の生活文化を創造していくという立場で考えられた生活の場であるということと、地域生活への多くの試みの中で最後に困難が残った部分であるということです。入所施設の中で暮らす処遇困難障害者も常に地域生活への移行を指向しています。

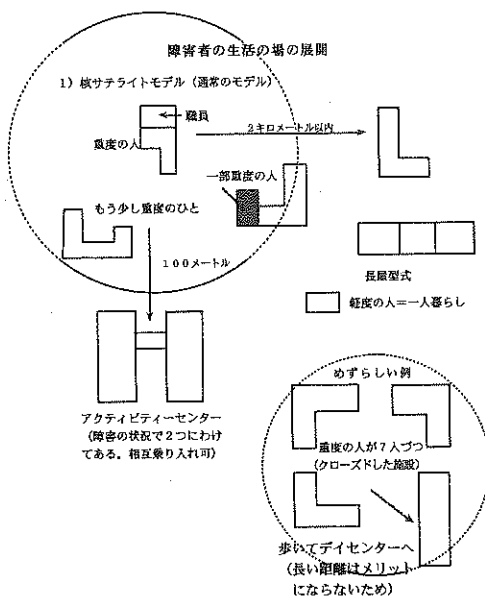
二つ目は生活の場の豊かさです。本人の部屋は個室が原則で、本人の好きな絵画、家族などの写真(みんなすてきな額に入っており、たくさんさんのセロテープ、ましてはガムテープなどで貼ってはいない)、沢山の花、本人の作品等々に満ちていて、実にひとりひとりの個性豊かにかつ、上品にインテリアされています。全てがゆつたりとした空間です。すてきな家具、浴室やトイレ、調理場はひとりひとりに合わせた福祉機器で整備されています。障害に合わせた文化的なアイテム。自閉の方の部屋の中にはテントが張ってありました。きつと広い空間と充分な人的体制(デイセンターは利用者一人に対し職員が三人、入所施設は一对一です)がこうした環境を作りだしているのかなと思いました。

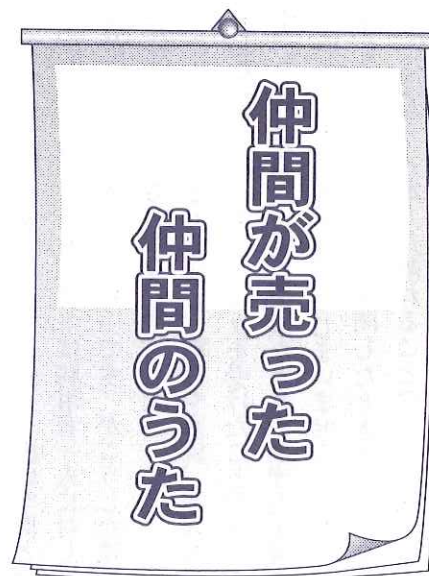
これら生活の場を訪問し、職員や家族、本人と交流しながらちょっとシヨックを受けたことがあります。それは私が「こんな素敵な家具や調度品を備えていて利用者の人が壊してしまいませんか。私の施設など何日もつか」と質問したときのことです。「それはきつと本人が触れることのできる物が少な

過ぎるのではないのですか。こうした物が充分に用意されていれば、そして使い方を知ることができれば壊してしまうことは少ないのではないのでしょうか。」と反論され、重度障害者の常同的な行動、自傷的な行為を逆に、職員の方から日本の施設で見てシヨックを受けたことなどに議論が展開してしまいました。適切に物と人が用意されれば、そういうことはあり得ないということです。こうした話題から重度障害者のセックスにも話題が移り、障害者の現実には正面から対峙し、実践を事実としてつくっていく姿勢に、少々納得しない気分を残しながらも感銘を受けて帰ってきました。

障害者も無料で移動に利用しているというベンツのタクシーのつて、酪農王国デンマークのオーフス県を走り回り、整理されないほんやりした頭で通訳のセルダール英子さんの話を聞き風景をながめていました。目の前に広がる牧場は、牛一頭の排泄物を完全にリサイクルすることができる広さの土地を目安に、何頭飼えるのかという牧場の規模を厳格に決めているのだそうです。酪農王国は環境先進国でもありました。エネルギー問題についての国民の結論でしようか、牧場のあちこちに風力発電の巨大な扇風機のような設備が立っています。デンマークの町にスラム街はありませんでした。広いとはいえませんが宿舎の朝食にもでたりんごやフランスの木数本と子供の遊べる芝生ぐらいはある家が都市計画にそって整然と並んでいます。日本の町並みのように映画のセットのような軽さはなくほとんどが煉瓦造りで看板はほとんど目につきません。デンマークの人々は三時頃には家路につき、日が沈むとローソ

クを灯し、家族や友人たちと団らんを囲むのが日常だといっています。彼らの食事は決して贅沢とは言えませんでした。おいしいパンとチーズ、少々のジャム、牛乳、庭で採れた果実が朝食の定番です。輸入しているという野菜は食卓では貴重品だといっています。確かに国民の税負担は収入の半分を超えます。しかし失業率は低く、女性の社会参加は広がっています。その多くは福祉分野です。九十年の終わりには一人あたりのGDPは日本を超えたといっています。三時頃になると三々五々労働者は帰宅していきます。仕事の音がこんなに呑気に聞こえるほどゆつたりした労働生活を送っていて、質素だけれど何か満ち足りた生活。一方で失わない労働・生活の中での様々な創意工夫。考えれば考えるほど自立したデンマークの人々とその実現の過程を知りたいという思いは強くなるばかり。日本人の生き方にどっぴり浸かった私の世界観を揺さぶり続けました。





こぶし作業所では、昨年にも続き今年もカレンダー販売に取り組みました。自治会で選出した実行委員会を取り組んだ昨年と大きく違い、今年は作業班で取り組みました。二〇〇一年度は、新しい班として「石けん第二班」が発足し、きょうざれんの物品販売もこの班で行う事になりました。

夏季物品販売では、石けん販売とセットで食品・縫製用品販売に取り組みましたが、十分に取り組みず、販売先も伸びなかったのが反省点として残りしました。このため、カレンダー販売を始めるのにあたり、

会議を開いて取り組むかどうか話し合いました。昨年は、仲間が売りたいカレンダーを三種類仕入れましたが、途中で「三種類だけではお金が入らない。もっと売らなくては」との声が強くなり、最終的に全種類のカレンダーを扱うようになりました。その経験から、今年は「たくさん種類の種類をたくさん売ろう」と強気に出ました。

まず十月のこぶしバザーで販売するために、「働く仲間のうた（以下、仲間のうた）」カレンダーを二〇〇本仕入れ、仲間が中心となって販売しました。バザーに来て下さったお客さんや保護者にPRしてました。バザーが終わってから、班のメンバーで話し合いを持ちました。「なかまニュース」を使って他の作業所ではどう取り組んでいるのかを学習しました。

本格的には、十月半ばより販売活動に入りました。売れそうな場所を仲間から出してもらい、昨年成果のあったところやこぶしと日常的につながっているところを回ることにしました。同時に、カタログの準備も並行して行わなければなりません。更には、石けんの梱包、パンの集計、週一回のベアリングの納品、パンの運搬も石けん第二班で行っているため、全員が一緒の作業ではこなし切れません。

そこで、販売担当を限定し、中での作業と外回りに分担し、カレンダー依頼と石けん作業との両立が

できるような体制をつくりました。外回りを鬼頭さんと野口さんが担当し、木村さんは中での石けん作業とカタログ準備、池田さんは両方の仕事に入り、牛丸さんは伝票作成というように班の中でも作業が分担されました。外回りでは、宇都宮市役所・栃木県庁の組合を皮切りに、バザーでお世話になった組合、病院、診療所、生協と言うように幅広く事業所を回って販売依頼をしました。その他に、十一月四日には日産栃木工場の「しらすぎまつり」、十一月二十三日には宇都宮市福祉まつりに出店し、大きくPRしました。立ち寄る人の中には「一、三〇〇円？高けーよ」「もう少し安けりやね」という声もありましたが、反面、「いい柄ね」といって買ってくださるお客さんも少なくありませんでした。

十一月も中旬、「仲間のうた」の在庫は減りませんが直接販売をしました。この方式は大当たりで、ある日には五カ所事業所を回った毎に「仲間のうた」を買っていただいたため、一日で六、五〇〇円の売り上げになりました。この作戦を積み重ね、地道に注文を取ることができました。

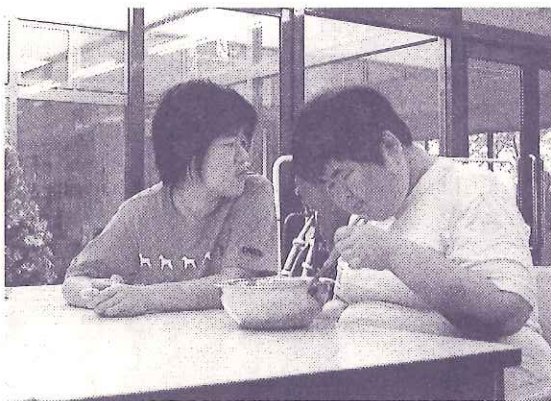
特記すべきは石けん第二班のメンバーの努力です。鬼頭さんは、「カレンダーやる」といって外回りを連日楽しみにしたり、野口さんは、自分から車に乗り込んだり、笑顔をふりまいて「仲間のうた」

を売っていました。また、池田さん・木村さんは、職員がいわなくとも自分で販路を開拓し、近所の医者や店に営業するなど、自主的でした。

そして、もう一つの主人公が、ボランティアや保護者の力です。亀田さんの妹さんがボランティアとしてきてくださり、カレンダー依頼期間中は主に中の仕事をサポートしてくれました。また、今年も保護者のパワーが爆発しました。鬼頭さんはイベントでの販売の時に家族総出で参加されたり、野口さんは在庫状況をたびたび保護者の方に連絡してカレンダーをすすめるなど、積極的に協力してくださいました。野沢さんは知り合いの方に広め、「三万円売ってきたよ」と昨年を上回る成果を披露してくださいました。

また、昨年以上の事業所の協力を得ることができました。組合事務所・学校では、忙しい中、仲間の訴えを聞いてくださり、「仲間のうた」を中心に受注をいただきました。学校生協では、各種カレンダーをあわせて九十本以上の注文がありました。カレンダー販売もあと残りわずかです。あれほど山積みになっていた「仲間のうた」のストックもあと一本になりました。年内に納品しきれよう、精一杯販売活動を仕上げていきます。

(東岡 記)



## 僕たちが つくりました

今年度からデイサービスでは、毎週お菓子作りを中心に調理実習を行っています。

初めは、仲間がつくるには難しい要望が多く、仲間・職員共々悪戦苦闘、試行錯誤していました。自分で食べたいものを自分たちで決めて作る。その楽しみを皆で共有したいと始まった日課なのですが、食えることが中心で作ることへの関心を引き出すことが私たち職員の課題になっていました。少しずつ

道具を揃え、一人一役となるようにしたり、同じものを小グループ編成にして作ったり、既製のものにアレンジを加えたりと、仲間みんなに関わる

ことが出来る工程を意識し簡単に作れるものから始めることで、この一年で作ったものは、十種類。お菓子以外にも挑戦しました。調理実習を行うことで、手を



洗う・机を磨く・道具を洗うなどの衛生面に気を配ることができるようになった仲間がいます。できた食品を嬉しそうに「僕たちが作りました」と職員や来客の方に届けることで、喜びと自信が生まれた仲間がいます。最近では、デイサービスの活動を仲間がご家族に自分で話題として出せるようになっての思いから、お土産を作ることもしています。この活動から周囲に評価されることももっと自信と楽しみを感じてもらえたらと思っています。また職員もうまくできた時には「何かのイベントで出せるかも」なんて密かにニヤニヤするのでした。これからのデイサービスに乞うご期待。

(猪瀬 記)

# おむすび

保護者  
リレートーク

今回はこぶし作業所に通所されている新田忠弘さんのご家族の登場です。

〈こぶしとの出会いは?〉

学校卒業のあと、身障センターでのデイサービスに週三回通っていました。通い初めて何ヶ月かしてから市役所の職員からこぶしの見学を勧められました。

〈こぶしの第一印象は?〉

前にも見学したことがあるので、様子は分かっていました。どんなに重い人でも通えるところなので安心していました。

〈実際に通ってみてどうでしたか?〉

はじめから、送迎車に乗っての通勤でした。それが良かったのでしよう、すぐなじみました。

〈初めの頃はどんな仕事をしたのですか?〉

缶つぶしでした。はじめは、ペーリングは難しく、缶のない時にはペーリングをやっていたようですが、本人は好きじゃないのですよ。ペーリングでは、忠弘がやりやすい道具を使ってやっていたようです。

本人は缶の仕事が一番です。はじめは指を切ったり、缶のあとは臭かったりで心配しましたが、本人は張り切ってやっていて、喜んでいました。実際に仕事を見せていただいたときに、缶つぶしをやった

いた姿を見て、驚いたのです。

〈今までに、特に印象に残っていることは?〉

こぶしでやることはみんな嬉しいんですよ。朝、送迎の車に乗った瞬間の顔がとてもいい顔なんですよ。

〈こぶしでのことは家で話しますか?〉

こぶしであったことは何でも、家で家族みんなに話します。私が説明しながらですが、そうするとよくわかるんです。

〈普段の生活では数について良く覚えてますね。〉

学校時代に字や数の学習をしました。身障センターでもやっていたのですが、そのときは作業ではなく、クラブ的な取り組みでした。できると言われて自信になったのでしよう。でも、こぶしに入ってから、自分の意志を表現できるようになったのです。自己主張もできるようになってきました。学校時代にはなかったことですね。

〈将来の希望は?〉

本人はよくわかっているでしょうが、私は宿泊の様子を知りたいです。先日のグループホーム見学会で感じましたが、グループホーム的なところにいけるよう、力を入れたいですね。本人は、こぶしの仲間がいるときっと良いと思うんです



よ。こぶしの宿泊なら、行きたがるんですよ。

家庭的で、こぶしの仲間と生活できる場所を本人も希望しています。大きい施設では、置き去りにされそうです。見学会で見たホームが家庭的で良さそうなどころだったのです。忠弘の頭の中は、「こぶし」のことでいっぱいです。日曜日も、「こぶし」まで行くことがあります。土、日曜日の過ごし方は悩んでいます。スーパーやデパートめぐりをしていますが、家に一日中いることができないのです。どこかに出かけたがるのです。

本当にこぶしが好きなのです。こちらにも勇気づけられました。どうもありがとうございます。

## お知らせ

### セルプ・みらい ニュース

去る十二月十五日第二回チャリティーダンスパーティーが行われました。今回は少し早くから準備を始めました。今から八年前、けやき作業所分場の取り組みのひとつとしておこなわれたダンスパーティーで中心になられたこぶし作業所の元保護者の力強い援助と先生方の暖かいご協力のお陰で、前回の倍近い方々にご参加頂き、華やかにそして優雅に、楽しいひとときを過ごす事が出来ました。みらいの会の主旨に耳を傾けご協力下さいました皆様、本当に有り難うございました。

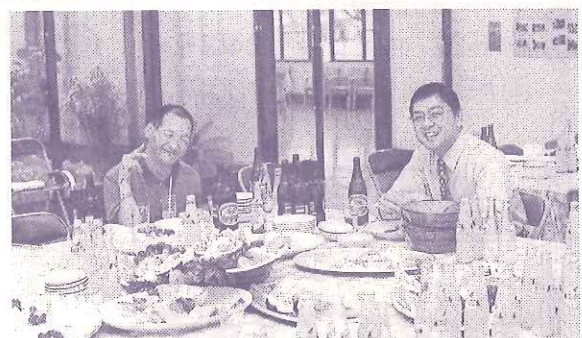


# “癒(いや)し系のお店”

平成十三年十一月十一日の下野新聞に  
キッチンセल्पの記事が出ました。

き作業所開所当時より障害者雇用はもちろんのこと、地域の理解者として後援会活動、授産の仕事等も日々応援して下さっています。改めて感謝いたしますとともに、今後とも御支援の程よろしくお願い致します。ハイコーパック鈴木様よりお言葉をいただきましたので紹介させていただきます。

意味ですべての社員が輝いて働ける職場を築いてまいる所存です。皆様には今後とも倍旧のご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。最後に本日に来るまで並々ならぬご指導を賜りました皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



▲けやき作業所の開所式で。右の方が鈴木健夫様です

## 社会部寄 障害者による喫茶店

必要と分かっている、一五七歳の作業所員七人事件取材が続くと気がめいる。ときに「ほっと一息」が欲しくなり、喫茶店や本屋を探す。

最近、すてきな店を見つけた。宇都宮市草草二丁目、とちぎ福祉プラザ一階の喫茶店「キッチン・セल्प」。

「癒(いや)し系」の雰囲気「癒(いや)が店の売りだ。開店から約一年、常連客も増えているという。」

運営するのは、同市柳田町の知的障害者通所授産施設「こぶし作業所」。二十

「それまで作業所と自宅の往復だった。店に出ると人と接する機会が増え、言葉が多くなった人もいます」と同店主任の金田さん(五十)。新メニューも、全員で会議を重ねて決めている。(野)

癒しの効果は絶大。客は当然、店員にありがとう「ごちそうさま」の言葉が出る。

障害者に偏見を持つ人は少なくない。県の調査でも知的障害者に「同じ一人の人間として尊重し、接したい」と考える人は半数に満たない。

「偏見、差別はいけない」と理屈で考える前に、この店に一度、足を運んでみてはいかが。感謝の言葉が自然と口をつくこと、請け合

### 自然に出る感謝の言葉

お陰様で、去る十月十日、障害者雇用における県知事表彰を授かりました。誠に身に余る光栄と存しております。様々な出会いの中から、障害がある方々のおつき合いが広がり、今日に至っておりますが、実際はこのような表彰を頂くほどの内容ではなく、只々冷汗三斗の思いでございます。障害者と同じ職場に働くことで、健常者にはやさしさや、根気強さ、勇気を頂くばかりです。それに比べ障害を持つ皆様には一人一人の悩みや相談事を充分に聴いてあげることができず、半分も恩返しをしていないようで心苦しいばかりです。未熟な私達ではございますが、この度の光栄を肝に銘じ、本当の

### (けやき)

去る、十月十日にハイコーパック(株) 代表取締役、鈴木健夫様が障害者雇用分野におかれまして栄えある県知事賞を受賞されました。鈴木様は、けや

き作業所開所当時より障害者雇用はもちろんのこと、地域の理解者として後援会活動、授産の仕事等も日々応援して下さっています。改めて感謝いたしますとともに、今後とも御支援の程よろしくお願い致します。ハイコーパック鈴木様よりお言葉をいただきましたので紹介させていただきます。

**1月こよみ**

**こぶし作業所**  
 1月4日(金) 仕事始め  
 5日(土) 支援会議  
 19日(土) 職員会議

**けやき作業所**  
 1月4日(金) 仕事始め  
 12日(土) 支援会議  
 19日(土) 職員会議

**サポートセンター**  
 1月4日(金) 仕事始め  
 12日(土) 職員会議  
 19日(土) 支援会議

ハイコーパック株式会社  
代表取締役 鈴木 健夫

敬具

# ● 掲 示 板 ●

## セルフ・みらい建設のための 募金にご協力ください

施設を建設するためには、多額の資金が必要になります。国や県から補助を受け、又、公的な融資制度を活用しても約1,700万円の寄付・募金なくては、施設を建設できません。

そのため、皆さまには、私たちの施設づくりの趣旨をご理解いただき、施設建設募金へのご協力を心よりお願いいたします。

## 募 金 要 領

1口3,000円です(何口でも結構です)

募金をしてくださる方は

●事務局または作業所にお持ちくださるか、下記までお電話いただければ幸いです。

事務局(佐護方) 0285(84)6181

けやき作業所 028(687)1040

●ご送金(郵便振込)の場合は、所定の振替用紙をご使用いただくか、下記へお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00140-9-558846

みらいの会

## ボランティア 募集

こぶし・けやきで  
楽しく仕事をしませんか

内容 こぶし作業所  
けやき作業所  
デイサービスセンター  
第2けやき作業所  
(作業所で仲間と一緒に仕事を  
して下さる方募集しています。)  
キッチンセルフ  
厨房・フロントでお手伝いし  
ていただける方  
ときわ荘  
日中のそうじボランティア  
すずらの家  
夕食づくりボランティア

きょうされん  
賛助会員募集  
連絡は栃木支部事務局  
けやき作業所へ

こぶし作業所・けやき作業所  
後援会会員拡大にご協力をよろしく  
お願いいたします。

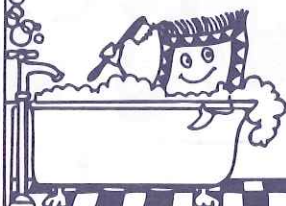


## ふふふせっけん

好評発売中!!

粉石鹸 1.2キロ入り 240円

固形石鹸 2個入り 100円



## 第25次

国会請願署名・募金に  
ご協力  
をお願いいたします。

お問合せは  
各作業所まで



## にこにこパン屋さん

各種豊富に取りそろえて  
おります。注文票をFAX  
にてお送りしますので、  
お気軽にご連絡下さい。

## けやき作業所

直通電話兼FAX  
028(687)1788へどうぞ。

